



あしやぶつきょうかいかん  
**国登録有形文化財 芦屋仏教会館**

所有者	公益財団法人 芦屋仏教会館
設計者	片岡 安
施工者	大阪高橋組
構造	鉄筋コンクリート造 地上3階・地下1階建
建築面積	200.0㎡
延面積	753.98㎡
竣工年	昭和2年(1927)
登録年月日	平成30年(2018)3月27日
その他指定等	芦屋市景観重要建造物

所在地	芦屋市前田町1-5
アクセス	阪急芦屋川駅より南へ徒歩約7分 JR芦屋駅より西へ徒歩約7分 阪神芦屋駅より北へ徒歩約7分
備考	外観のみ自由見学可



株式会社丸紅商店（現在の丸紅株式会社）の初代社長・7代目伊藤長兵衛は、仏恩報謝の発願から、芦屋で仏教講演会などの活動を始め、その活動から大正13年（1924）に崇信会を設立しました。崇信会の発展に伴い、「誰もが気兼ねなく集える、開かれた聞法の道場」として、伊藤が私財を投じ、大阪の財界人などから賛同を得て建てたのが芦屋仏教会館です。この建物では、設立当初の理念を継承し、今も仏教講座などの地域社会に根差した活動が行われています。

内部は1～2階に大講堂とバルコニー席、3階に集会室などがあり、芦屋川の人口堤防の高低差を利用して、地下1階が設けられています。地下1階には竣工当時、食堂がありました。また、3階は昭和24～29年（1949～1954）の間、芦屋市の初代図書館として利用されました。

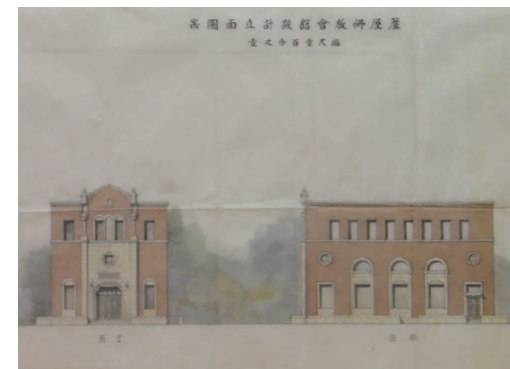
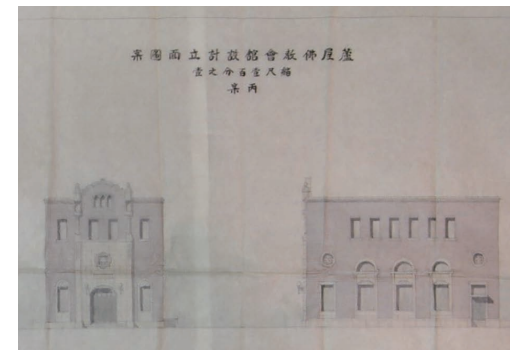
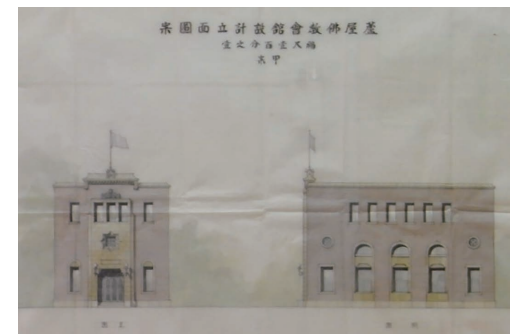
阪神・淡路大震災の後、平成15年（2003）には、芦屋西部第一地区震災復興土地画整理事業に伴い本建物東側の道路が拡張されることになりましたが、曳家工法によって、建物を解体せずにジャッキアップして西へ約2.5m移されました。

**芦屋仏教会館着色立面図**

〈芦屋市立美術博物館蔵〉

上から甲案、乙案、丙案、決定案で、乙案の勾配屋根など、各案で少しずつデザインが異なる。決定案では、新たに胴蛇腹（建物壁面を上下に区切る帯状の装飾）が設けられている。

なお、決定案をもとにつくられた設計図も残されているが、片岡によって現場で設計変更がなされたようで、設計図と実際の建物では若干の違いが見られる。



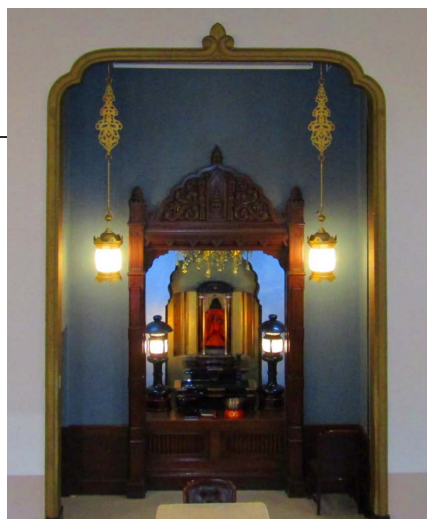


芦屋仏教会館の建築様式について、設計者の片岡は「東洋風の手法を加味したる近代式として、殊に内部大講堂の正面には本館建設の趣旨に相応しき印度風の手法に意を用いたる…」と記述している。各所のデザインから「東洋風」「近代式」「印度風」というキーワードを感じることができる。



建物北面の擬宝珠形デザイン

大講堂正面にある印度風の装飾が施された祭壇。その中央に設置された厨子には、叡福寺（大阪府南河内郡太子町）からお迎えした16歳の聖徳太子像が安置されている。左右には聖徳太子が制定した十七条憲法の第1条と第2条が掲げられている。



建物正面のステンドグラスは蓮の花がモチーフ。ガラスには気泡がみられる。

かたおか やすし  
片岡 安

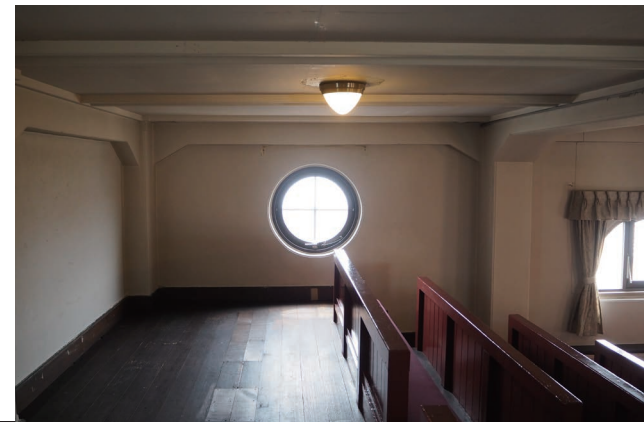
明治9～昭和21年（1876～1946）。現在の石川県金沢市生まれ。明治30年（1897）に東京帝国大学工科大学造家学科を卒業。当時の大阪建築界の重鎮であり、都市計画研究の先駆者。また、大阪商工会議所会頭などを務めた関西財界の有力者でもあった。明治38年（1905）に辰野金吾と設立した辰野片岡建築事務所では、大阪中之島公会堂（大阪市）をはじめ多くの建築の設計・監理を行った。その後、大正7年（1918）には片岡松井建築事務所、大正11年（1922）には片岡建築事務所を開設している。



正面玄関を入ってすぐの大講堂には、バルコニー席が設けられている。



大講堂天井の照明も建築当初のものと推定される。



バルコニー席の丸窓



ちようべえ  
伊藤 長兵衛

明治元～昭和19年（1868～1944）。現在の滋賀県彦根市生まれ。幼名は長次郎。明治17年（1884）より伊藤長兵衛商店に丁稚奉公に入り、明治26年（1893）に7代目伊藤長兵衛を襲名。大正10年（1921）に伊藤忠商店を合併し、丸紅商店（現在の丸紅株式会社）を設立して初代社長に就任した。